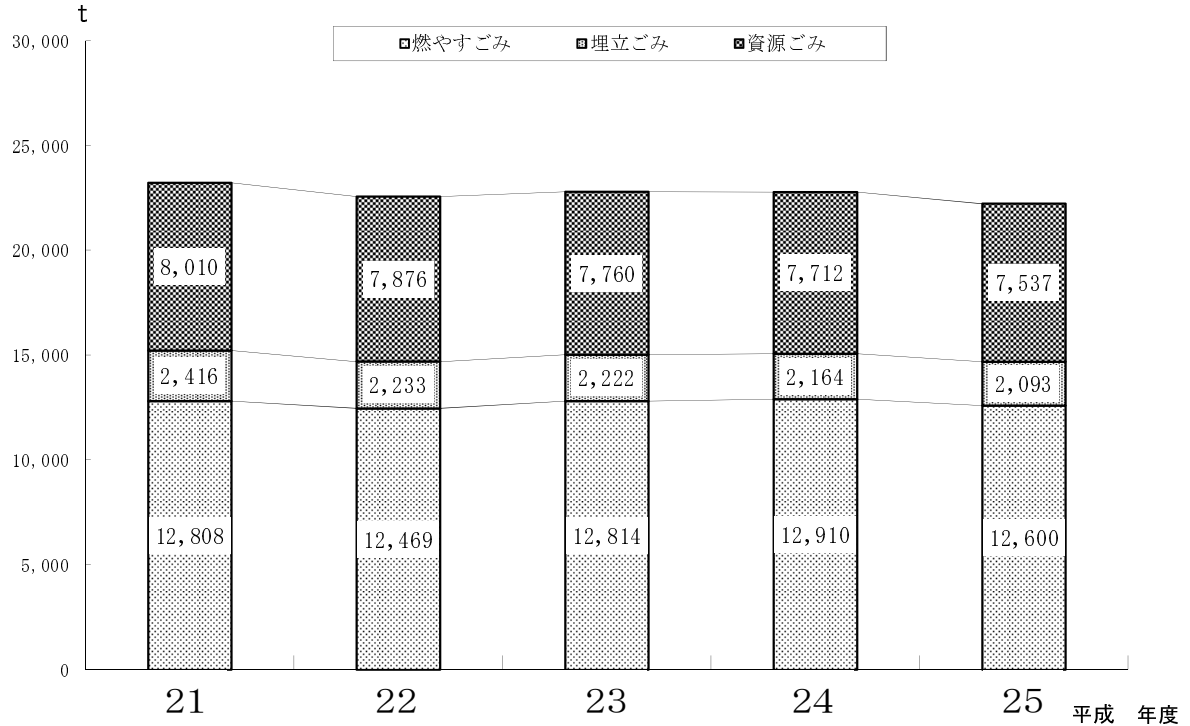


平成25年度 一般廃棄物の排出状況について

1 人口及びごみの収集量の推移



項目	単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	対前年度 比率 %
人口 (9月末時点住民基本台帳人口+外国人登録人口) *	人	108,485	107,830	107,223	106,453	105,611	
ごみの収集量 (家庭系一般廃棄物) (C)	計画値 t/年	25,400	25,300	25,200	21,950	21,529	-
(市が所管するごみ収集量+直接搬入量)	実績値 t/年	23,234	22,578	22,796	22,786	22,230	97.6
処分ごみ (A)	実績値 t/年	15,224	14,702	15,036	15,074	14,693	97.5
燃やすごみ	計画値 t/年	13,100	12,900	12,700	12,135	11,910	-
	実績値 t/年	12,808	12,469	12,814	12,910	12,600	97.6
埋立ごみ	計画値 t/年	3,340	3,360	3,380	2,203	2,106	-
	実績値 t/年	2,416	2,233	2,222	2,164	2,093	96.7
うち火災ごみ	実績値 t/年	70	7	3	18	8	44.4
資源ごみ (B)	計画値 t/年	8,840	8,860	8,880	7,612	7,513	-
	実績値 t/年	8,010	7,876	7,760	7,712	7,537	97.7
紙資源	実績値 t/年	5,126	4,995	4,908	4,804	4,686	97.5
金属資源	実績値 t/年	698	615	587	571	551	96.5
ガラスびん	実績値 t/年	429	452	425	415	401	96.6
ペットボトル	実績値 t/年	92	90	80	78	74	94.9
プラ資源	実績値 t/年	1,474	1,542	1,578	1,639	1,631	99.5
特定ごみ	実績値 t/年	14	13	13	26	22	84.6
生ごみ	実績値 t/年	177	169	169	179	172	96.1
再資源化率 (B/C)	計画値 %	34.8	35.0	35.2	34.7	34.9	-
	実績値 %	34.5	34.9	34.0	33.8	33.9	-
一人あたりごみの収集量 (家庭系一般廃棄物)	実績値 kg/人・年	214.2	209.4	212.6	214.0	210.5	
処分ごみ	実績値 kg/人・年	140.3	136.3	140.2	141.6	139.1	98.2
燃やすごみ	実績値 kg/人・年	118.0	115.6	119.5	121.3	119.3	98.4
埋立ごみ	実績値 kg/人・年	22.3	20.7	20.7	20.3	19.8	97.5
資源ごみ	実績値 kg/人・年	73.9	73.1	72.4	72.4	71.4	98.6

*平成24年度からは住民基本台帳人口に外国人含む

計画値は飯田市一般廃棄物 (ごみ) 処理計画 (平成19年度~23年度) 及び同 (平成24年度~28年度) による

2 分析

平成 25 年度のごみの収集量（家庭系一般廃棄物）の合計は 22,230 トンで、前年度対比 556 トン、2.4%の減少となったものの、「飯田市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（平成 24 年度～28 年度）における計画値 21,529 トンとの比較では、701 トン上回っている。

(1) 処分ごみについて

燃やすごみと埋立ごみを合わせた、処分ごみの収集量は 14,693 トンで、前年度対比 381 トン、2.5%の減少となった。

燃やすごみの収集量は、平成 20 年度から 22 年度までの推移を見ると、毎年 2.6～3.5% 程度減少してきていたが、23 年度に増加に転じ、24 年度はほぼ横ばいとなった後、25 年度は 2.4%の減少となった。この減少率は、平成 20 年度から 22 年度までの数値に近似しており、人口の減少も考慮するとこのまま減少傾向が続くと考えられるが、今後の動向を注視したい。

埋立ごみの収集量は、過去 5 年間の推移を見ると、平成 20 年度においてイタチガ沢最終処分場閉鎖に伴う駆け込み需要と想定される増加が見られ、また各年度において火災ごみによる変動も見られるものの、グリーンバレー千代が運用開始された平成 21 年度からは減少傾向が続いている。これは、施設の延命化のため、分別の徹底がなされていることにより、ガラスびんやプラ資源、また小型家電類のピックアップ回収等の資源化が促進されていることも一因と考えられる。

(2) 資源ごみについて

資源ごみの収集量は 7,537 トンで、前年度対比 2.3%の減少であり、全ての分別区分において減少している。

中でも、特定ごみを除くと、ペットボトルが前年度対比 5.1%の減少と、最も大幅な減少率となっている。このことは、平成 24 年度の全国の販売量が前年に比べ減少していることや（PET ボトルリサイクル推進協会調べ）、本体の軽量化が進められていることなどがその要因と考えられる。

ガラスびんについては、平成 24 年から過去 5 年間の全国の出荷実績の推移をみると、減少傾向にあるため（日本ガラスびん協会の調査をもとに、環境課が収集対象品目について算出）、出荷量の減少などがその要因と考えられる。

金属資源についても、平成 24 年度から過去 5 年間の全国の消費重量の推移をみると、減少傾向にあるため、消費量の減少などがその要因と考えられる。

また、旧市内一部地域における生ごみの分別収集量については 172 トンと、3.9%の減少となっている。

(3) 再資源化率について

資源ごみの重量をごみの収集量総量で除した再資源化率は 33.9%と、前年度より 0.1 ポイント上昇したが、これは資源ごみの減少率よりも、処分ごみの減少率の方が大きかったことによる。